

経済・金融 フラッシュ

最近の人民元と今後の展開(2015年8月号)～変動幅拡大なら下限メド突破の可能性が浮上

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

- 7月の人民元相場(対米国ドル)は基準値・現物実勢ともにほぼ横ばいで推移した。米国では利上げ観測、中国では利下げ観測と、米中金利差拡大で元安・ドル高となり易い地合いだったものの、中国人民銀行が基準値を高め設定したため横ばいに留まったと見られる。
- 当面の人民元(現物実勢)は引き続きボックス圏での推移を予想している(取引レンジは1米国ドル=6.12~6.27元)。引き続き米国では利上げが視野に入る一方、中国では利下げ観測がくすぶるため元安となり易いが、中国人民銀行が基準値を高め設定することで弱含みでも急落しない展開が続く。但し、変動幅拡大なら下限メド突破の可能性が浮上。

[7月の動き]

7月の人民元相場(対米国ドル)は基準値・現物実勢ともにほぼ横ばいで推移した。基準値は当月高値が13日に付けた1米国ドル=6.1133元、当月安値が21日に付けた同6.1199元と小幅な変動幅に納まり、7月末は前月末比0.1%元安・ドル高の同6.1172元で終えた。一方、現物実勢(スポット・オファー、中国外貨取引センター)は、1日に付けた1米国ドル=6.2019元が当月高値、7日に付けた同6.2100元が当月安値となり、その後は極めて狭いレンジ内で相場は膠着、7月末は前月末比0.1%元安・ドル高の同6.2098元で取引を終えた(図表-1)。

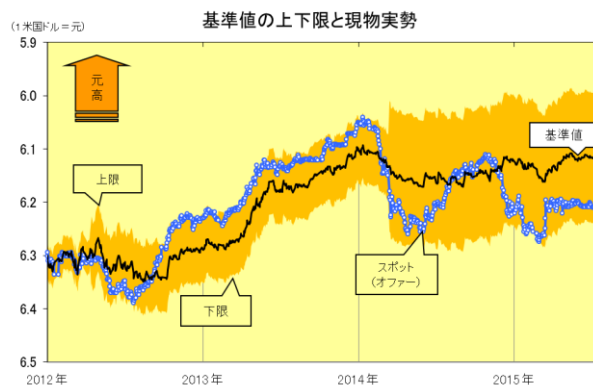
米国では利上げ観測がくすぶる一方、株価が急落した中国では利下げ観測がくすぶっていたことから、元安・ドル高となり易い地合いだった。しかし、中国人民銀行が基準値を高め設定し続けたことから、下値余地(許容変動幅の下限)も限られ、狭いレンジ内で横ばいとなった(図表-2)。

(図表-1) 人民元(対米国ドル)の価格推移

	基準値		現物実勢	
	前日比	(注)	オファー	ビッド
6月末	6.1136	-	6.2012	6.2007
7月1日	6.1149	0.0013	6.2019	6.2010 (当月高値)
7月2日	6.1171	0.0022	6.2050	6.2044
7月3日	6.1160	▲0.0011	6.2057	6.2055
7月6日	6.1172	0.0012	6.2093	6.2091
7月7日	6.1166	▲0.0006	6.2100	6.2099 (当月安値)
7月8日	6.1175	0.0009	6.2092	6.2089
7月9日	6.1151	▲0.0024	6.2089	6.2087
7月10日	6.1153	0.0002	6.2093	6.2092
7月13日	6.1133	▲0.0020 (当月高値)	6.2085	6.2083
7月14日	6.1165	0.0032	6.2090	6.2088
7月15日	6.1152	▲0.0013	6.2093	6.2091
7月16日	6.1173	0.0021	6.2096	6.2094
7月17日	6.1192	0.0019	6.2095	6.2094
7月20日	6.1197	0.0005 (当月安値)	6.2098	6.2097
7月21日	6.1199	0.0002 (当月安値)	6.2096	6.2095
7月22日	6.1168	▲0.0031	6.2095	6.2093
7月23日	6.1172	0.0004	6.2097	6.2097
7月24日	6.1169	▲0.0003	6.2096	6.2095
7月27日	6.1176	0.0007	6.2096	6.2096
7月28日	6.1154	▲0.0022	6.2095	6.2094
7月29日	6.1150	▲0.0004	6.2091	6.2089
7月30日	6.1165	0.0015	6.2097	6.2096
7月31日	6.1172	0.0007	6.2098	6.2097

(資料) CEIC(中国外貨取引センター)

(図表-2)

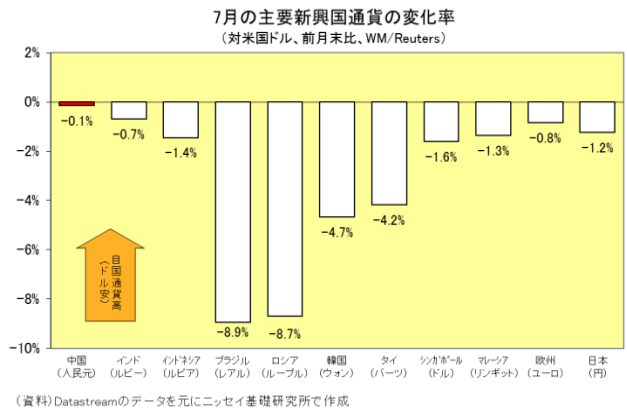


(資料) CEIC(中国外貨取引センター)のデータを元にニッセイ基礎研究所で作成
(注)現在の上下限は基準値±2%、12年4月16日~14年3月16日までは同±1%、それ以前は同±0.5%

一方、世界の通貨の動きを見ると7月はドル全面高の動きとなった。主要通貨では欧州ユーロが米国ドルに対して前月末比 0.8%下落、日本円が同 1.2%下落となった他、新興国通貨でもブラジル（リアル）とロシア（ルーブル）が同 8%超の下落、韓国（ウォン）とタイ（バーツ）が同 4%超の下落となった（図表-3）。

ドル全面高の中で、中国の通貨（人民元）は米国ドルに対してほぼ横ばいで推移したことから、人民元には再び割高感がでてきている。

(図表-3)



[今後の展開]

さて、当面の人民元（現物実勢）は引き続きボックス圏での推移を予想している（取引レンジは 1 米国ドル=6.12~6.27 元、図表-4）。米国では利上げが視野に入っている一方、中国では株価急落を背景に追加金融緩和の期待がくすぶることから、引き続き人民元は売られ易いだろう。しかし、9月に習近平国家主席の訪米を控える中で、中国人民銀行は基準値の高め設定を続けると見られることから、弱含みではあっても急落しない相場展開が続くと思われる。

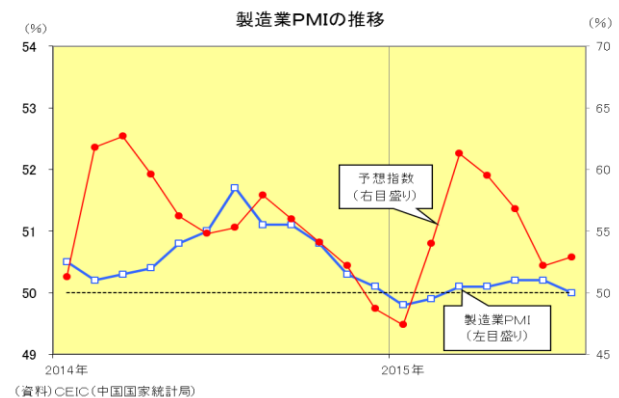
米国で仮に予想以上の景気指標ができれば、利上げ時期が前倒しになるとの思惑から米国ドルが上昇し人民元は下値を試すことになると見られるが、今年3月に付けた直近安値(1 米国ドル=6.2747 元)に近づけばドル売り元買い介入への警戒感が高まるだろう。一方、中国で景気指標が予想以上に改善すれば、株価に底打ち感がでてきて人民元は上値を試す可能性もあるが、8月1日に公表された製造業PMIが若干の悪化となったことから（図表-5）、今月発表の7月の景気指標が大幅改善する可能性は低く、昨年10月に付けた直近高値(同 6.1112 元)を突破する力はないと思われる。

なお、許容変動幅（現在は基準値±2%）を拡大するとの見方が再び浮上してきた。7月24日に国务院が人民元の変動を上下双方向に拡大する方針を示したからである。現物実勢が基準値よりも大幅に安いレベルで推移する中で許容変動幅を拡大すれば、下限メドを突破する可能性もでてくる。

(図表-4)



(図表-5)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。